

グリフィンス3戦目は、昨年の関東王者 法政大学との一戦。
 攻守ともに強カラインを揃えバックス陣もスピードある選手が多く、関東で最も手強い相手！

SPRING GAME 3th 2024年5月19日(日)K.O.14:00 法政大学川崎総合G 天候:雨

チーム名	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
法政大学 ORANGE	14	14	7	0	35
明治大学 GRIFFINS	7	21	0	10	38



1Q

明治キックで始まった立ち上がり、法政の攻撃は4年エースQB谷口を温存するもパスとラン、バランスの良い攻撃で明治守備に的を絞らせずあつという間に先制0-7とされる。明治もすぐさま反撃。自陣30yから始まった最初の攻撃はOL陣が空けた中央の穴を#25井上(4年生)#34廣長(4年生)のランで進みタイミングのいいショートパスも決まり敵陣に侵入。QB#15新楽(3年生)の素早い状況判断からスクランブルでロングゲイン！ゴール前まで進むと中央ランと見せかけ#15新楽(3年生)が自ら走り込み同点に追いつく！7-7。



ここから前半終了まで両チームの点の取り合いが始まる！

法政2シリーズ目はパス中心に攻撃を展開。エースWR11がエンドゾーン内で好捕してタッチダウン。ここから前半終了まで両チームの点の取り合いが始まる！



法政2シリーズ目はパス中心に攻撃を展開。エースWR11がエンドゾーン内で好捕してタッチダウン。7-14。



2Q

2Qに入り続く明治の攻撃も負けてない。

#15 新楽(3年生)のスクランブルでファーストダウン更新すると OL陣の見事なブロックから#25 井上(4年生)がオフタックル付近を駆け上がり、そのまま53yを走りきりタッチダウン14-14と追いつく。

続く法政の攻撃も止まらない。DB陣が法政ロングパスに競り負けタッチダウンを許し14-21と再度引き離される。

しかし、ここから明治攻撃も更に加速していく！

#34 廣長(4年生)のラン、#19 五十嵐(3年生)のヒッチパス、最後は#89 金子(3年生)がゴール内で好捕しわずか3プレーでタッチダウンを返し21-21と追いつく！！

次の法政攻撃はエースWR11がロングパスを好補し、たった4プレーでタッチダウンを許してしまい21-28。その後両チーム守備が踏ん張り お互いにこの試合で初めてパントを蹴り合う。

そして前半終了間際の明治攻撃。

#34 廣長(4年生)のスクリーンパスと小気味よいラン、#2 後藤(2年生)のミドルパスで時間を止めながら相手陣に入り前半終了直前に#25 井上(4年生)がショートパスからそのままタッチダウン！ 28-28で前半を終了。





3Q

後半、オフェンススタートの明治大学。

後半スタートの明治攻撃は止められてしまいパント。
法政は後半最初のシリーズでエースWR11をQBに使う
ワイルドキャットを展開。
QBのランを中心に的を絞らせずにタッチダウンを
取られてしまう。28-35。

後半はお互いにランプレーを多用した為、
あっという間に3Qが終了。28-35のまま最終4Qへ



4Q-1

明治守備も疲労がたまる中、執念の集まりで法政攻撃を
抑えはじめパントに追い込むも
この法政パントが自陣3yまで押し込まれ
厳しい位置からのオフェンスとなる。

しかしここで明治攻撃は更にスピードを上げていく！！

エース#34廣長(4年生)のランと#3後藤(1年生)、
#1桑村(3年生),両レシーバーへのパスで相手陣まで進む
と
この日絶好調の#25井上(4年生)がスイープから
またたく間に16ヤードを駆け抜けこの日3本目となる
同点のタッチダウンを決める。35-35。





4Q-2

残り時間4分を切った法政のキックリターンでは
 ロングゲインを許してしまうが
 FGも与えたくない明治はここで守備が奮起。
 #9守屋(4年生)のQBサックで押し込むと
 #31大島(3年生)の素早いハードタックルでファースト
 ダウンを与えず4thダウン3ヤードまで追い込むと
 法政はギャンプルを選択。
 ここを守備陣が執念の集まりで守りきり攻撃権を奪う！！

この日一番の盛り上がりを見せる明治観客席！！

残り2分を切った最後の攻撃では エース#34廣長(4年生)に3連続でキャリアさせ 相手陣22ヤードまで前進しFG圏内まで進むと、その後も時間をうまく使いながら残り2秒でタイムアウト。
 最後の1プレーを残し、K#4近藤(4年生)の逆転FGに託す。
 名手K近藤はキックの成功率は春大会「100%」。
 26ヤードFGを難なく成功し、この日初めての逆転で38-35としゲームセット！！
 激しい点の取り合いで見応えのある春の法政戦は、今シーズンのGRIFFINSの初勝利となる素晴らしい試合となった。

次戦も関東の宿敵である早稲田大学との戦い！
 昨年の秋季リーグ戦では完勝したGRIFFINS。
 手強い相手ではあるが、法政戦での絞らせずに機能した攻撃のリズムのまま、
 守備陣もさらなる粘りで勝利に繋げたい！





◆法政大戦を振り返って

法政戦にて、幹部を中心に選手、学生スタッフ、コーチ陣にインタビューを実施しコメントを頂きました。ご協力頂きました皆様、誠にありがとうございました。

◆インタビュー #6 主将 深尾 (LB)



■法政大学と対戦した印象。

簡単に止まる相手ではないと感じました。

■試合での、良かったところ。

秋に向けて修正ポイントが多く出たことです。

■試合での、悪かったところ。

勝負にこだわりきてれないことです。

■6月9日早稲田戦への意気込み。

GRIFFINSが負けた関西大学に同点だったことから強いことが想定されるが細かな勝負事にもこだわって勝利をつかみます。

◆インタビュー #34 副将 廣長 (RB)



■法政大学と対戦した印象。

GRIFFINSに入部してから勝ったことのない相手にチャレンジャーの気持ちで望みました。しかしながら、個々の能力も、試合中のアジャストも法政よりも上回ることができたと思います。

■試合での、良かったところ。

今までディフェンスに助けられていたが、オフェンスで勝てたことです。

■試合での、悪かったところ。

オフェンスでは、3度のパントのシチュエーションを作ってしまったことです。

■6月9日早稲田戦への意気込み。

今年、波に乗っている早稲田大学ですが、今まで通りGRIFFINSらしいフットボールを全てぶつけて勝ちます。応援、よろしくお願いいたします。

◆インタビュー #57 副将 宮本 (OL)



■法政大学と対戦した印象。

甲子園ボウルの常連校でもあり、僕が入部してから勝ったことのないチームだったので、対策を徹底し、イメージ通りになりました。

■試合での、良かったところ。

オフェンスでしっかり勝てたことがとても良かったところです。

■試合での、悪かったところ。

まだまだ、細かいミスなのどがあるので修正しないといけない部分がたくさんあるところです。

■6月9日早稲田戦への意気込み。

今年は早稲田大学が鬼門になると考えているので、しっかりと勝ち切りたいです。



◆インタビュー #40 松田(4年生)(LB)



■法政大学と対戦した印象。

個々の力が強く、ラン、パス共に細かなミスが少ないチームでした。

■試合での、良かったところ。

最後の4down ギャンブルの場面で止め切れたことは、ディフェンス全体の自身に繋がる最高のプレーでした。

■試合での、悪かったところ。

一対一の場面で勝ちきれず、また、ディフェンス全体の集まりが悪いため、多くの得点を取られてしまいました。

■6月9日早稲田戦への意気込み。

早稲田戦では、集まり、パシュートの部分を強化し、ディフェンスで勝ったと思って頂けるような試合にします。

◆インタビュー #25 副務 井上 (RB)



■法政大学と対戦した印象。

ディフェンスのメンバーが抜けていたこともあり、自分たちの思っているオフェンスをすることができました。法政大学さんはエースQBも秋には帰ってくると思うので、もっと自分たちの得点力をあげたいです。

■試合での、良かったところ。

今回の試合はランだけでなく、パスも成功率を上げることができ、バランスのいいオフェンスをすることができたと思います。また、自分としても2年生の春以来のタッチダウンをとることができて、うれしかったです。

■試合での、悪かったところ。

自分としては、タックルされてからもう一歩ねばれたかなと思いました。次の試合ではそこを意識して臨みたいと思っています。また、チームとして、キッキングの精度がまだまだ低いので、もっとこだわらせていかなければいけないと感じました。

■6月9日早稲田戦への意気込み。

早稲田大学さんは、ディフェンスからリズムを作ってくるチームなので、モメンタムを絶対に渡さないようオフェンスからリズムを作り出していきたいです。また、高校時代の同期が相手のディフェンスの中心メンバーにいるので、1対1でも絶対に負けたくないです。

◆インタビュー #9 守屋(4年生)(DL)



■法政大学と対戦した印象。

私が入学してから一度も勝ったことがない相手でしたが、すでに二連敗している自分たちにとって、絶対に負けられない試合でした。前半、ディフェンスは押される形になりましたが、オフェンスの奮闘もあり、流れを渡すことなく、後半しっかりとアジャストし、勝利まで繋ぐことができました。タフな試合を勝ち切れた事は良かったですが、課題が大きく浮き彫りになった試合でもありました。

■試合での、良かったところ。

全員が最後まで勝ち切る姿勢を崩さなかったことが、勝利に繋がったと思います。私自身も、勝負所で自分が止めないと負けると考えていたので、最後まで集中力を切らさずプレーできました。

■試合での、悪かったところ。

アジャスト、一対一、ボールへの集まりがまだまだ弱く感じました。たくさん練習します。

■6月9日早稲田戦への意気込み。

O,D,Kともに、非常に完成度の高いチームなので今まで以上に気合を入れて練習します。また法政戦で浮き彫りになった課題も完璧に修正し、今までで1番強いGRIFFINSとして試合に臨めるよう努力します。



◆インタビュー #4 近藤(4年生)(K)



■法政大学と対戦した印象。

攻守ともに接戦で、観戦している方々も面白いゲーム展開だったと思います。

■試合での、良かったところ。

試合を決めるシーンをしっかりと決め切れたところでした。

■試合での、悪かったところ。

パントで自分の役割を果たすことができなかったことです。

■6月9日早稲田戦への意気込み。

今シーズン、調子の良い早稲田大学に引導を渡せる様、試合に臨みます。

◆インタビュー #15 新楽(3年生)(QB)



■法政大学と対戦した印象。

一昨年、昨年と対戦したよりも自分たちのオフェンスが通用したように感じました。

■試合での、良かったところ。

試合の最初から最後まで集中して安定して得点を取り続けられたところです。
また、パスもランも出て持ち味を活かせることが出来ました。

■試合での、悪かったところ。

後半の入りの部分で少しオフェンスが出ない場面があったところです。

■6月9日早稲田戦への意気込み。

昨年勝利してるとは言えども、かなり強くなっているチームなので残りの時間プレー面だけでなく戦術的にも入念に準備をして臨みます。

◆インタビュー #75 池田(2年生)(DL)



■法政大学と対戦した印象。

体格の良いOLが揃っていて自分が思った通りのプレーができなかったです。

■試合での、良かったところ。

ゾーンプレーを割ることができたところです。

■試合での、悪かったところ。

フィニッシュが甘かったところとパスラッシュでプレッシャーをかけることができなかったところです。

■6月9日早稲田戦への意気込み。

全身全霊で早稲田大学のOL陣に臨みます。



◆インタビュー #26 高橋(2年生)(DB)



■法政大学と対戦した印象。

自分とのサイズの違いに初めは圧倒されました。パスの組み立て方が上手いと感じました。

■試合での、良かったところ。

去年の甲子園ボウルの出場校相手に勝利できたことです。

■試合での、悪かったところ。

ディフェンスでかなり点を取られてしまい、オフェンスに負担をかけてしまったところです。

■6月9日早稲田戦への意気込み。

今まで練習でやってきたことを全てぶつけて、今度はディフェンスで勝てるように頑張ります。

◆インタビュー 櫻井監督

■法政大学と対戦した印象。

法政さんも前週に立命館さんに敗北を期しており、本学には必ず勝つという気概を感じました。フィジカルがしっかりとしており、本学よりも一回り大きい身体及び力強さを改めて印象付けられました。余談ですが、私自身初めて川崎総合グラウンドへ伺い、トレーニングルームなどを備えた保健体育棟や観客の方も入りやすいグラウンドなど、大学として学ぶことも多くありました。

■試合での、良かったところ。

徐々に本学のフットボールを遂行することができるようになってきた中で、全体的に高い集中力で、一つひとつのプレーにおいて、一人ひとりがやりきり1対1にこだわる。という点を遂行し続けることができ、点を取り合う中で僅差ではありますが、最後勝ち切ることができたところです。

■試合での、悪かったところ。

タックルミスやコミュニケーションミス、そしてシステムの理解精度になります。点の取り合いの中で勝ち切ることができましたが、今試合においては、ディフェンス全体がもう1段2段高いレベルで戦いたかったです。しかし、オフェンス・ディフェンス・キッキング、全体で一つのチームですので、今一度、八幡山でチーム力を高める取組を行って参ります。

■6月9日早稲田戦への意気込み。

法政さんと共に、ここ数年間の中で甲子園ボウルへ出場している強豪校であり、立教さんと同じくルーツ校となります。昨年は、春・秋となんとか勝ち切ることができましたが、今年は今年ということで、本学のフットボールを積み上げ、試合開始から試合終了まで、1プレー1プレー愚直にやり切り続けます。17時00分キックオフ予定と遅い時間帯となりますが、ご声援のほど宜しくお願い致します。

◆インタビュー 高橋HC

■法政大学と対戦した印象。

個々の能力で秀でた選手が試合でも活躍していた印象です。また春の試合と言うこともあり、新たな取り組みや選手起用を行ない、秋を意識されていることが見受けられました。

■試合での、良かったところ。

兎にも角にも勝ち切ったことです。フットボールはODK三位一体となることや、フィールドとベンチが一体になることが重要なスポーツです。今回の試合では最初から最後まで切らすことなく、チームワークを意識出来たのではないかと思います。個々の良かった点は沢山ありましたが、何より春の段階で、若いディフェンスの選手が法政大学の高津佐選手を経験出来たことは大きな収穫です。

■試合での、悪かったところ。

やはり基本をどこまで徹底出来ているか、出来ていない部分で相手より劣ったことがありました。今一度、基本の徹底や、当たり前のレベルを上げることが追求し、個々のレベルアップに繋がりたいと思います。

■6月9日早稲田戦への意気込み。

いつもGRIFFINSを応援頂き、有難う御座います。創部90周年のルーツ校対決となりますが、引き続きチーム一丸となり、勝利を目指します。また、早稲田大学とは秋も当然戦う相手となりますので、個々人の力量を最大限に発揮し、秋に向けて実りある試合になる様、努めて参りますので、沢山のご声援を宜しくお願い致します。



明治大学アメリカンフットボール

GRIFFINS



2024年度5月号-2-9

明治大学体育会アメリカンフットボール部グリフィンズ父母会

◆Photo

父母会にて、試合風景を撮影しております。

今回の撮影は近藤さん、桑村さん、高橋さん、島田さん、岩崎さん、今回から鈴木さんに加わっていただき6名の方々にいただきました。皆様、天候不良の中、本当にお疲れ様でした！





明治大学アメリカンフットボール

GRIFFINS



2024年度5月号-2-10

明治大学体育会アメリカンフットボール部グリフィンズ父母会





明治大学アメリカンフットボール

GRIFFINS



2024年度5月号-2-11

明治大学体育会アメリカンフットボール部グリフィンズ父母会





明治大学アメリカンフットボール

GRIFFINS



2024年度5月号-2-12

明治大学体育会アメリカンフットボール部グリフィンズ父母会



■次戦

2024年6月9日(日) 17:00 アミノバイタルフィールドで早稲田大学との対戦です。昨年の秋季リーグ戦では、攻撃、守備共に圧巻で勝利した**GRIFFINS**。

早稲田大学は先月、関西大学と交流試合で同点の結果を残している。ディフェンスでは、切れの良いフロントラインだが**NEW GRIFFINS**のOL陣は今年違います。スーパーヘビー級揃いで、スピードも兼ね備えたモンスターが阻止する事でしょう！ 法政大学戦での春季オープン戦、初勝利をきっかけに4th GAMEを勝ち取り、勝率を5分けに戻したいところ。

皆様の熱い声援で**GRIFFINS**を勝利へと導きましょう！

Go ! GRIFFINS.



明治大学アメリカンフットボール

GRIFFINS



2024年度5月号-2-13

明治大学体育会アメリカンフットボール部グリフィンス父母会

交流戦の後に、JV戦が行われました。セカンドメンバーや、1年、2年生、新人達が出場し前半20分、後半20分の2GAMEを行いました。小雨の中での試合でしたが法政大学とのGAMEは良い経験になったはずです。今後の活躍に期待したい選手ばかりでした。

JV GAME 2024年5月19日(日)K.O17:00 法政大学川崎総合G 天候:雨

チーム名	1Q	2Q		TOTAL
法政大学 ORANGE	0	0		0
明治大学 GRIFFINS	6	0		6



前半

明治の攻撃からスタート。QBは#12堀切(2年生)。

#21高橋(3年生)のランと#27牛島(2年生)へのミドルパスで幸先よくファーストダウン更新するも流れに乗れず攻守交代。

法政のランプレーでズルズル出されるも、明治#35佐尾山(2年生)が鋭いブリッツでQBサック。攻守交代とする。

明治2回目の攻撃は#27牛島(2年生)が70ヤードのロングランで相手ゴール前まで前進するも、その後4回のパス失敗で得点ならず。

2回目の法政攻撃は明治セカンダリーの鋭い集まりと#99伊藤DL(3年生)がOLを押し込みながらタックル! ゲインを許さない。

次の明治攻撃 最初のプレーは#21高橋(3年生)が右オープンにスイープ。

レシーバー陣の見事なブロックが決まりそのまま50yを走りきりタッチダウン!! 6-0と先制。

その後は両チーム守備が踏ん張り、前半終了。



後半

法政大学の最初の攻撃はランとパスを織り交ぜながら、ジワジワ前進を許すも # 1 4 関(1年生)の素早い上がりからのタックルや # 35 の 2 回目のQBサックで得点は許さない。明治の攻撃も # 1 2 堀切(2年生)から # 8 1 石田(3年生)へタイミングの良いミドルパスを2回成功でファーストダウン更新していくがランプレーが止められ攻守交代。次の攻撃でも # 8 1 石田(3年生)へのロングパスを試みるが、惜しくも失敗。残り1分を切ったところで法政にロングパスを取られ自陣に攻め込まれるも # 1 4 関(1年生)がインターセプト！最後のシリーズでは # 21 のロングランで敵陣に進むが、タッチダウンを狙ったパスがインターセプトされ試合終了となった。

レギュラーゲームに出場機会が少ない選手の貴重な試合。部分的にスキルに欠ける場面もあったが予想以上に、リズム良くゲーム展開をしたのではないかと。オフェンス、ディフェンスも力強く、スピードも兼ねた選手ばかり。法政大学を封じ込めた印象でもあった。

NEW GRIFFINSの選手層の厚さを、改めて再認識させられた試合内容だった。下級生には未経験者も多く在籍をしているが春季オープン戦でも、目まぐるしく活躍している選手も数多く存在する。チーム全体でレベルUpしている事は明らかである。法政大学に勝利した経験は彼らにとってもスキルアップ、そして自信にも繋がることでしょう。秋季リーグ戦に向けて、ポジション争いにも注目していきたい。





◆法政大学JV線を振り返って

法政大学JV戦にて、今後、成長を期待する選手たちにインタビューを実施しコメントを頂きました。ご協力頂きました皆様、誠にありがとうございました。

◆インタビュー #99 伊東(3年生) (DL)



■法政大学と対戦した印象。

一つ一つのプレーに対するこだわりや完成度が高い印象を受けました。

■試合での、良かったところ。

1年のブランクがあつてのシーズンであつた為、関大・立教では不甲斐ないプレーが多かつたですが、今回の試合からは少しづつではあるが試合感を取り戻すことができたところです。

■試合での、悪かつたところ。

自分の役割の徹底が完璧にはできていない時がありました。そのため、後ろでプレーする人間に迷惑がかかつてしまったところです。

◆インタビュー #21 高橋(3年生) (RB)



■法政大学と対戦した印象。

フレッシュな選手が多く、勢いのあるリアクションが印象的でした。今年の秋、来年と法政でレギュラーで出れるレベルの選手もいると感じました。

■試合での、良かったところ。

試合経験はオフェンスの中ではあると思うので、その面でもプレーでもしっかりと引張れたのではないかと思います。

■試合での、悪かつたところ。

自分が一番やるという気持ちが前に出過ぎて、欲張ったプレーだったり、もう少し余裕の持ったプレーや視野の広さを意識できたなら良かったと思います。

◆インタビュー #52 中(2年生) (LB)



■法政大学と対戦した印象。

法政大学に対し、自分の普段の練習が通用したところと通用しなかつたところが露呈したと感じました。

■試合での、良かったところ。

自分の課題の一つであるヒットやブロッカー処理が思っていたよりも通用したことです。

■試合での、悪かつたところ。

タックルミスや責任ギャップの死守といった基礎的な部分の反省が多かつたところです。

◆インタビュー #12 堀切(2年生) (QB)



■法政大学と対戦した印象。

体が大きくパワー、スピードもありDBは寄りが早く、簡単にはパスを通させてくれませんでした。

■試合での、良かったところ。

試合に出るのはほぼ初めてだったので、エクスチェンジのミスやインターセプトをゼロにして強気でいこうという気持ちで臨むことができました。高橋周平先輩のタッチダウンや同期の牛島のロングゲインの際にミスなくエクスチェンジすることができ良かったです。

■試合での、悪かつたところ。

パスラッシュが来た際に落ち着いて投げることや、スクランブルする時の判断がまだ遅いため要練習です。残り時間が少ない時にいかに落ち着いて司令塔としての役割を果たせるかということも実感しました。



明治大学アメリカンフットボール

GRIFFINS



2024年度5月号-2-16

明治大学体育会アメリカンフットボール部グリフィンズ父母会

